

水質管理データベースシステム

構築業務

落札者決定基準

令和 4 年 12 月

新潟市水道局水質管理課

1. 本書の目的

この落札者決定基準は、新潟市水道局（以下「局」という。）が、「地方自治法施行令第 167 条の 10 の 2」に定める「総合評価一般競争入札」により、「水質管理データベースシステム構築業務」（以下「本業務」という。）を委託する事業者を選定するにあたり、あらかじめ落札者を決定する基準を明確にすることを目的とする。

2. 落札者の決定を行う者

落札者の決定にあたり、次の【表 2. 選定委員会】に記載の職名にある者 6 名で構成する「水質管理データベースシステム構築業務委託事業者選定委員会」（以下「選定委員会」という。）を設置し、落札者及び総合評価落札方式一般競争入札に必要な事項を決定する。

また、選定委員会の事務局は、技術部水質管理課が務める。

その他、選定委員会の設置に関して必要な事項は、「水質管理データベースシステム構築業務委託事業者選定委員会設置要綱」で別途定める。

【表 2. 選定委員会】

役割	職名
委員長	新潟市水道局技術部長
副委員長	新潟市水道局技術部水質管理課長
委員	新潟市水道局総務部経理課長
委員	新潟市水道局総務部営業課長
委員	新潟市水道局技術部管路課長
委員	新潟市水道局技術部浄水課長

3. 落札者の決定方法

選定委員会は、局から本業務の入札参加資格を得た者（以下「入札参加者」という。）が、手続きに沿って適正に行った入札及び提案に基づき、価格に対する点数（以下「価格点」という。）と提案内容、システムデモンストレーション及びプレゼンテーションに対する点数（以下「技術点」という。）をそれぞれ算出し、「価格点」と「技術点」の合計（以下「総合評価点」という。）が最も高い者を、本業務の落札者として決定する。

3.1. 配点

配点は、【表 3.1. 配点表】に記載のとおりとする。

なお、「価格点」及び「技術点」及び「総合評価点」の算出時に小数点以下があった場合は、小数点以下第 2 位を四捨五入し、小数点以下第 1 位までを有効とする。

【表 3.1. 配点表】

区分		配点	
価格点		800 点	
技術点	提案書評価	2,200 点	3,200 点
	システムデモンストレーション 評価	500 点	
	プレゼンテーション評価	500 点	
総合評価点		4,000 点	

3.2. 価格点の算出方法

価格点は、入札参加者が適正に入札した入札書を開札した結果から、次の【表 3.2. 価格点の算出方法】に記載した算出方法にあてはめて算出する。

なお、入札書に記載された入札価格が、予定価格（11,512,600 円）から消費税及び地方消費税を除いた金額（10,466,000 円）（以下「入札書比較価格」という。）を上回った場合は、その入札を行った入札参加者は失格となり、当該入札を無効とする。

【表 3.2. 価格点の算出方法】

区分	配点	算出方法
価格点	800 点	価格点の配点×(1－入札価格÷入札書比較価格)

3.3. 技術点の算出方法

技術点は、次の【表 3.3.技術点の算出方法】に記載のとおり、評価対象を 3 分割し、入札参加者がそれぞれ適正に行った提案内容から、次の「(1)提案書評価」から「(3)プレゼンテーション評価」までに記載した方法で各評価点を算出し、各評価点の合計を技術点とする。なお、選定委員会から指名を受けた局職員（以下「評価担当者」という。）が評価者となる場合は、評価後に選定委員会の承認をもって確定する。

【表 3.3. 技術点の算出方法】

評価対象区分	配点	評価者
(1) 提案書評価	2,200 点	評価担当者の計 6 名
(2) システムデモンストレーション評価	500 点	評価担当者の計 6 名
(3) プレゼンテーション評価	500 点	選定委員の計 6 名

(1) 提案書評価

① 入札説明書別紙 1_配点一覧表「評価項目(中)－3.システム機能(仕様)証明」の評価

評価担当者は、システムが有する機能について、「水質管理データベースシステム機能(仕様)証明書」に基づき各機能要件に対する「対応可否」及び「機能実装方式」により評価する。対応可否及び機能実装方式は、それぞれ 1,550 点満点(各 No.につき「必須」20 点「推奨」10 点とする。)で評価し、「対応可否」は 600 点満点、「機能実装方式」は 100 点満点に換算し、提案内容に対する点数(以下「機能評価点」という。)を与える。

各機能要件の「対応可否」に対する機能評価点は、【表 3.3.(1)システム機能評価基準】に基づいて、4 段階で評価する。ただし、各機能要件について「条件付で対応可」の場合はその条件を具体的に記載し、「代替提案」がある場合はその内容や方法を分かりやすく記載すること。また、「対応可」において、局の機能要件を上回る内容を盛り込む場合は、そのアピールポイントがわかるよう記載すること。なお、局が「必須」とする機能について「対応不可」が一つでも含まれている場合は、「水質管理データベースシステム機能(仕様)証明書」のその属する項目における得点を 0 点とするので注意すること。(例として No.19 が代替提案不可能である「対応不可」の場合、「項目－04 入力」の得点は 0 点となる)。

さらに各機能要件に対する「対応不可」以外の機能については、その機能の実装方式によって評価を加える。機能評価点は、【表 3.3.(1)システム機能評価基準】に基づいて、4 段階で評価する。対応可否の評価と同様に「必須」とする機能について「対応不可」が一つでも含まれている場合は、その属する項目における得点を 0 点とする。

機能評価点(700 点満点)の算出は次式により行う。

$$\begin{aligned} \text{機能評価点} = & \text{対応可否評価点 (1,550 点満点)} \times 600 / 1,550 \\ & + \text{機能実装方式評価点 (1,550 点満点)} \times 100 / 1,550 \end{aligned}$$

【表 3.3. (1) システム機能評価基準】

区分	対応状況	評価段階	各機能要件の機能評価点
対応可否	対応可	3	$\frac{\text{各機能要件の配点} \times (\text{評価段階} - 1)}{2}$
	条件付で対応可	2	
	対応不可	1	
	代替提案	※	各機能要件の配点内において任意
機能実装方式	基本機能	3	$\frac{\text{各機能要件の配点} \times (\text{評価段階} - 1)}{2}$
	可変機能		
	カスタマイズ可変機能	2	
	対応不可	1	

② 入札説明書別紙 1_配点一覧表「評価項目（中）－12.運用コスト」の評価

評価担当者は、回答様式第 7 号で提案された令和 6 年度から令和 10 年度までの運用コストについて、【表 3.3.(2)運用コスト評価基準（相対評価）】に基づいて評価する。

【表 3.3. (2) 運用コスト評価基準（相対評価）】

小配点	算出方法
1. 運用保守費 240 点	<p>評価担当者は入札参加者が「回答様式第 7 号」で提案する令和 6 年度から令和 10 年度までの運用保守費を比較し、最も安価だった者の提案を「最優良経費」とし、以下の式に当てはめて該当提案者の得点を算出する。</p> <p>「小配点（240 点）」×「最優良経費」÷「当該提案者の経費」</p> <p>なお、「最優良経費」を提案した者が入札に違反した場合（該当入札が無効になった場合）は、次点の者が行った提案を「最優良経費」とする。</p>

③ ①及び②以外の評価

評価担当者は、①のシステム機能及び②の運用コスト以外の提案内容について、入札参加者が適正に提出した提案書の記載内容を対象として、【表 3.3.(3)

提案書評価基準】に基づいて、入札説明書別紙 1_配点一覧表の評価項目（小）毎（評価項目（中）「3.システム機能（仕様）証明」及び「12.運用コスト」を除く）に提案内容を確認し、評価を行う。

【表 3.3. (3) 提案書評価基準】

評価	評価段階	各評価項目の提案評価点
5：大変良い	5	$\frac{\text{各評価項目の配点} \times (\text{評価段階} - 1)}{4}$
4：良い	4	
3：標準	3	
2：やや劣る	2	
1：劣る	1	

④ 提案内容の評価

評価担当者ごとに 700 点満点に換算した場合の機能評価点と機能評価点以外の評価点とを合算（以下「評価担当者合計点」という。）する。

※評価担当者合計点（2,200 点満点）

＝（機能評価点（700 点満点）＋機能評価点以外の評価点（1,500 点満点）

提案書評価点は、全評価担当者の評価担当者合計点の総和を、評価担当者の人数で除した点数とし、選定委員会の承認をもって確定する。

※提案書評価点＝評価担当者合計点の総和／評価担当者の人数

(2) システムデモンストレーション評価

評価担当者は、入札参加者が面前で提案するシステムデモンストレーションの内容を対象として、【表 3.3.(4)システムデモンストレーション評価基準】に基づいて、入札説明書別紙 3_「システムデモンストレーション評価項目」の評価項目毎に提案内容を確認し、評価を行う。

なお、システムデモンストレーションは、選定委員会が指定した日時・場所で行い、入札説明書に記載の要件を内容とする。

また、各評価担当者が算出した評価結果（得点）の総和を、評価担当者の人数で除した点数をシステムデモンストレーション評価点とする。

【表 3.3. (4) システムデモンストレーション評価基準】

評価	対応度	得点
5：とても良い	100～81%	各配点×100%
4：良い	80～61%	各配点× 75%
3：ふつう	60～41%	各配点× 50%
2：悪い	40～21%	各配点× 25%
1：著しく悪い	20～0%	0 点

(3) プレゼンテーション評価

選定委員会の各委員は、入札参加者が面前で実施するプレゼンテーションの内容を対象として、【表 3.3.(5)プレゼンテーション評価基準】に基づいて、別紙 4「プレゼンテーション評価項目」の評価項目毎に提案内容を確認し、評価を行う。

なお、プレゼンテーションは、選定委員会が指定した日時・場所で行い、入札説明書に記載の要件を内容とする。

また、各選定委員が算出した評価結果（得点）の総和を選定委員の人数で除した点数をプレゼンテーション評価点とし、選定委員会の承認をもって確定する。

【表 3.3. (5) プレゼンテーション評価基準】

評価	対応度	得点
5：とても良い	100～81%	各配点×100%
4：良い	80～61%	各配点× 75%
3：ふつう	60～41%	各配点× 50%
2：悪い	40～21%	各配点× 25%
1：著しく悪い	20～0%	0 点

4. その他

- 提案内容は、本業務委託契約の一部とする。ただし、仕様書を上位に位置付け、局が承認した提案内容を部分的に採用する。
- 総合評価点が最も高い者が 2 者以上となった場合には、技術点が高い者を落札者とし、技術点も同じくなる場合には、くじにより落札者を決定する。
- 全ての入札参加者が落札者とならない場合は、交渉を行う。

- 本書の記載にない事項が生じた場合は、選定委員会で協議したうえで、委員長が決定する。